



(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、支援学校小学部第6学年 <大阪府（公立）実施対象校数・児童数 971校 68,102人>
 中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、支援学校中学部第3学年 <大阪府（公立）実施対象校数・生徒数 470校 65,298人>

(3) 調査内容

① 教科に関する調査

- ・小学校等【国語、算数、理科】
- ・中学校等【国語、数学、理科】

※英語（中学校等）は3年に一度程度の実施のため実施せず

② 質問調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

実施日 令和7年4月17日（木）

※中学校理科は、4/14～4/17の期間内で指定日に実施

【今年度調査の特徴】

- ※教科に関する調査は、国語、算数・数学、理科を実施（中学校理科は、CBT・IRT方式にて実施）
- ※児童生徒質問調査は、原則全ての児童生徒を対象に、オンライン方式により実施
- ※紙面で実施する調査の後日実施は、4月18日（金）から4月30日（水）まで実施

●今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

教科に関する調査結果

小学校

○ 国語

	平均正答数	平均正答率*	無解答率
大阪府	9.2問/14問	65%	3.4%
全国	9.4問/14問	66.8%	3.3%

漢字を書くことや、世代による言葉の違いに気付くことなどの、知識及び技能に関する問題については、概ねできている。

一方、「書くこと」では、目的や意図に応じて詳しく書くなど、自分の考えが伝わるように、書き表し方を工夫することに課題がある。

	学習指導要領の内容	平均正答率（%）	
		大阪府	全国
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.0	76.9
	情報の扱い方に関する事項	61.5	63.1
	我が国の言語文化に関する事項	80.3	81.2
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	65.0	66.3
	書くこと	67.1	69.5
	読むこと	56.1	57.5

【これからの学習に向けたアドバイス】

いろいろな人の意見と自分の意見を比較しながら、自分の考えをまとめよう。また、引用して詳しく書くなど、自分の考えが相手に伝わるように、文章を工夫して書くようにしましょう。

○ 算数

	平均正答数	平均正答率*	無解答率
大阪府	9.2問/16問	58%	3.7%
全国	9.3問/16問	58.0%	3.6%

「数と計算」の領域では、資料から必要な情報を読み取ったり数量の関係を捉え式に表ししたりすることは概ねできている。

一方、「データの活用」の領域では、目的に応じてデータを選択し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。

	学習指導要領の領域及び評価の観点	平均正答率（%）	
		大阪府	全国
領域	数と計算	62.4	62.3
	図形	55.7	56.2
	測定	53.8	54.8
	変化と関係	57.3	57.5
	データの活用	61.5	62.6
評価の観点	知識・技能	65.1	65.5
	思考・判断・表現	47.9	48.3

【これからの学習に向けたアドバイス】

グラフの種類やタイトル、数値から何を表すグラフを読み取りましょう。また、目的をもって身近なデータを集め、表やグラフに整理し、比べたり特徴をとらえたりして分析し、結論を出してみましょう。

○ 理科

	平均正答数	平均正答率*	無解答率
大阪府	9.3問/17問	55%	3.2%
全国	9.7問/17問	57.1%	2.8%

「地球」を柱とする領域については、土の粒の大きさによって水のしみ込み方に違いがあることについては概ね理解している。

一方、乾電池のつなぎ方や、水の蒸発・結露など理科に関する基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題がある。

	学習指導要領の領域及び評価の観点	平均正答率（%）	
		大阪府	全国
領域	エネルギー	43.9	46.7
	粒子	49.4	51.4
	生命	49.0	52.0
	地球	63.9	66.7
評価の観点	知識・技能	52.7	55.3
	思考・判断・表現	56.2	58.7

【これからの学習に向けたアドバイス】

実験や観察したることについて、図に整理したり関連する用語をノートにまとめてみましょう。また、理科の学習で学んだことを、日常生活で起こることや身の回りのものと関連付けて、知識や技能の理解を深めましょう。

中学校

○ 国語

	平均正答数	平均正答率*	無解答率
大阪府	7.3問/14問	52%	7.2%
全国	7.6問/14問	54.3%	6.7%

「読むこと」では、物語における登場人物の性格などの設定を捉えることや、根拠を明確にして表現の効果を考えることについては、概ねできている。

一方、「書くこと」では、読み手の立場に立ち、自分の考えが分かりやすく伝わるように、文章を書くことに課題がある。

	学習指導要領の内容	平均正答率（%）	
		大阪府	全国
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	47.8	48.1
	情報の扱い方に関する事項	—	—
	我が国の言語文化に関する事項	—	—
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	50.7	53.2
	書くこと	50.5	52.8
	読むこと	61.2	62.3

【これからの学習に向けたアドバイス】

自分の考えを伝えるときは、根拠を明確にし、相手に分かりやすくなるよう文章の構成や展開を考えるようにしましょう。さらに、目的や意図に応じて図や表を使うなど、表現を工夫しましょう。

○ 数学

	平均正答数	平均正答率*	無解答率
大阪府	7.0問/15問	47%	12.1%
全国	7.2問/15問	48.3%	10.6%

図形に関する用語の意味やグラフに関する基本的な考え方や、基礎的な知識は概ね理解できている。

一方、「データの活用」の領域では、相対度数など、用語やその求め方の理解に課題がある。また、じゃんけんのような不確定な事象の起こりかたについて、確率を用いて説明することに課題がある。

	学習指導要領の領域及び評価の観点	平均正答率（%）	
		大阪府	全国
領域	数と式	42.4	43.5
	図形	46.2	46.5
	関数	46.3	48.2
	データの活用	54.9	58.6
評価の観点	知識・技能	52.9	54.4
	思考・判断・表現	37.4	39.1

【これからの学習に向けたアドバイス】

データを整理・分析するときは、目的に合った用語を用いてまとめよう。また、起こりやすさを考えたり確かめたりするときは、場合の数など、これまでに学習した内容と関連付けて取組みましょう。

○ 理科

	全日程共通の公開問題における		IRTスコア
	平均正答数	無解答率	
大阪府	2.7問/6問	6.1%	府 487
全国	2.9問/6問	4.6%	全国 503

IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、全国平均を基準とした得点で表したものです。

理科の実験や観察に関する友だちの発表を聞いて、自分の考えの変容や新たな疑問、身近な生活との関連などについて、振り返りを記述することは概ねできている。

一方、「地球」を柱とする領域の問題では、資料に書かれた粒の大きさとすき間の大きさに着目しつつ、地層の特徴から水のしみ出し方を予想することに課題がある。

	全日程共通の公開問題における 学習指導要領の領域及び評価の観点	平均正答率（%）	
		大阪府	全国
領域	エネルギー	52.7	51.9
	粒子	53.2	56.8
	生命	27.7	29.7
	地球	33.5	36.2
評価の観点	知識・技能	42.0	42.2
	思考・判断・表現	49.2	53.9

【これからの学習に向けたアドバイス】

収集した資料などから必要な情報を読み取り、これまで学習した内容をもとに、結果を予想しながら観察や実験を行いましょう。また、予想と結果を比較しながら考察してみましょう。

* 文部科学省は都道府県の平均正答率を整数値で公表しています。



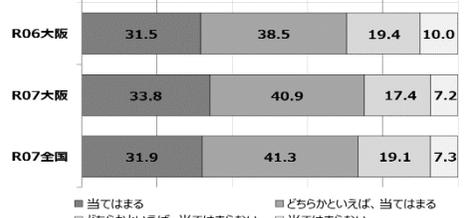
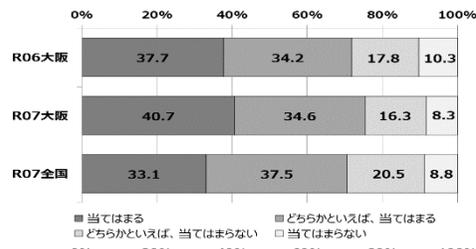
質問調査結果

安心して通うことができる学校

児童生徒 自分には、よいところがあると思いますか



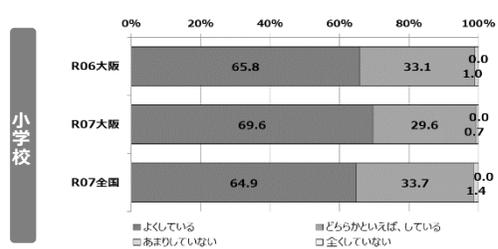
児童生徒 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



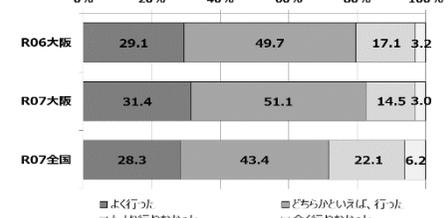
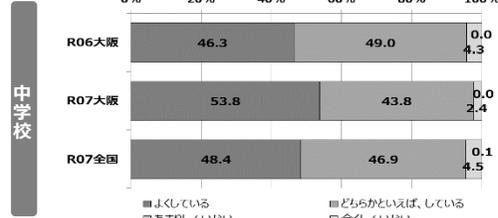
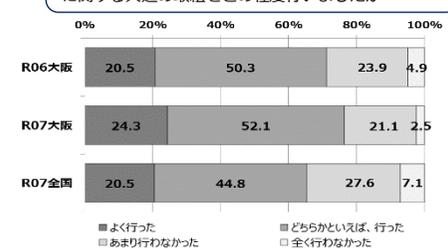
自分には、よいところがあると肯定的に回答した子どもの割合は、小中学校ともに昨年度より増加している。また、困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると肯定的に回答した子どもの割合は小中学校ともに増加し、全国平均も上回っている。

学びの質の向上をめざした教職員の研修や小中学校の連携

学校 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか



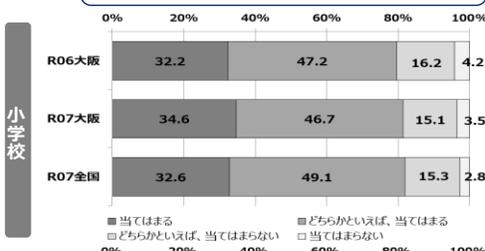
学校 前年度までに、近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか



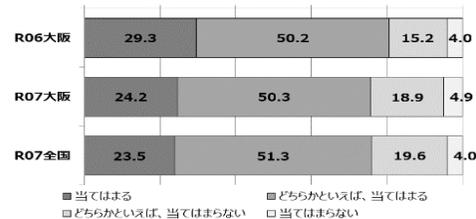
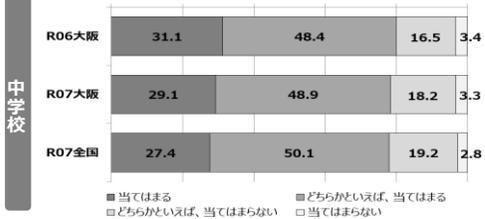
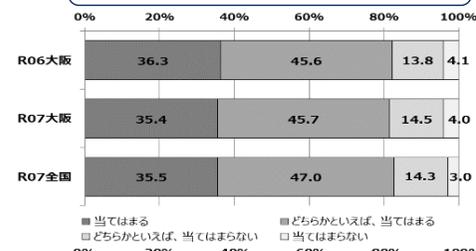
授業研究や事例研究等の研修を行っている学校は小中学校ともに増加しており、全国平均を上回っている。また、教育課程の接続等について、小中学校共通の取組みを行っている小中学校も増加しており、全国平均を上回っている。

子どもたちが自分で学び方を工夫したり、学んだことを生かす力

児童生徒 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



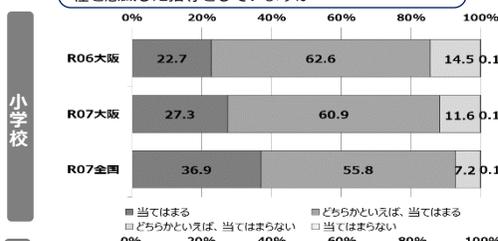
児童生徒 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができるとおもいますか



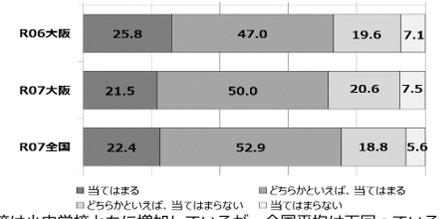
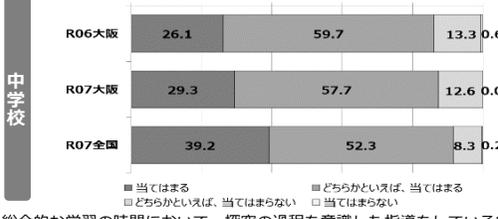
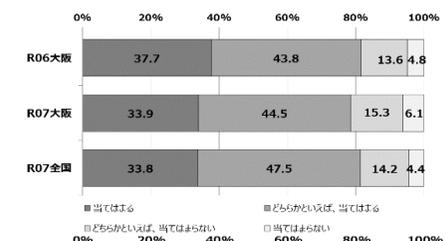
自分で学び方を考え、工夫していると肯定的に回答した子どもの割合は、小学校では昨年度より増加している。中学校では昨年度より減少しているが、全国平均を上回っている。一方、学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができるかについて、肯定的に回答した子どもの割合は、小中学校ともに昨年度より減少しており、全国平均も下回っている。

自律的に学び、地域や社会とつながる探究学習

学校 調査対象学年の生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか



児童生徒 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



総合的な学習の時間において、探究の過程を意識した指導をしている学校は小中学校ともに増加しているが、全国平均は下回っている。また、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うと肯定的に回答した子どもの割合は減少している。地域や社会をよくするために何をすればよいか考えるなど身近な問題を解決する目的意識をもった探究的な学習を今後深めていく必要がある。

※「肯定的に回答した子どもの割合」とは、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した子どもの割合の合計を表します。